

第2学年 生活科学習指導案

い組 男子17名 女子16名 計33名
指 導 者 永 野 優 希

1 単 元 大 す き や さ い さ ん

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第1学年小単元「きれいな花をさかせよう」で、アサガオを育てる活動を通して、アサガオの生長の観察や世話をすることができるようになってきている。また、第2学年「やったぞ2年生」で1年生のときに育てて収穫したアサガオの種を新1年生にプレゼントすることができた喜びから、アサガオを育てたときに身に付けた観察の仕方やかかわり方を生かして『もっといろいろな植物を育ててみたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、植物とのつながりをさらに深めるために、自分の思いや願いを基に、野菜を育て収穫する活動に、主体的・能動的に取り組ませる中で『自分の野菜を大きく育てて収穫したい』という思いや願いを達成していく楽しさを味わわせながら、活動への意欲を高めようとするものである。同時に、これまでの栽培経験を基に諸感覚を使って野菜にかかわり、友達の野菜と比べて、気付いたことを伝え合ったりしながら、野菜の観察や世話の仕方を自分なりに工夫する力を培おうとするものである。さらには、野菜は生命をもち生長することや野菜には特徴の違いがあること、自分の力で観察や世話をすることができた自分のよさや成長に気付き、今後の生活の中で、これまで以上に植物へ親しみをもちかかわっていくことができるようになることもねらっている。

なお、これらの活動は、『もっといろんな生き物を育ててみたい』『ほかの生き物のことを調べてみたい』という願いとして、「見て見て、小さな生きもの」の活動へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

野菜は、毎日の食事の中にも取り入れられており、子どもたちにとって大変身近な植物である。また、1年生で育てたアサガオやビオラと違い、収穫して食べることができるものである。子どもたちが野菜の栽培に主体的・能動的に取り組む原動力となるのは、この収穫への期待である。自ら苗を選択して購入し、継続的に観察や世話を行うという一連の栽培活動の中で、その成果が確かな実りとして表れ、発見の喜びや生長の楽しみ、願いが叶った成就感を味わうことができる。本単元で用いる野菜（ミニトマト・トマト・ナス・ピーマン・キュウリ・ニガウリ）は、子どもたちの食生活になじみ深く、栽培方法も比較的容易で、世話の仕方によっては、たくさん収穫できる野菜である。また、これらの野菜は、生長の様子や特徴が捉えやすくアサガオの栽培経験や諸感覚を使った観察から、多様な世話の必要性に気付き、試行錯誤しながら世話をすることができるものである。

このような野菜の栽培活動に主体的に取り組む、野菜に対する気付きを広げたり深めたりしながら野菜とのつながりを実感させるために、諸感覚を使った観察や世話をする活動と、それによって得た気付きや友達のよさを交流させる活動を調和的に設定していきたい。

具体的には、まず、「野菜さんこんにちは」の活動では、『野菜を大きく育ててたくさん収穫したい』という思いや願いを高めるために、木市に出かけ、野菜の苗を購入させ、意欲的に栽培活動に取り組めるようにしていきたい。その後、自分の目標などを話し合い、「みんなで協力して野菜さんを収穫しよう」という目標を共有する交流活動を設定したい。次に、苗の購入、植え付けの活動で高まった思いを基に「野菜さんのお世話をしよう」の活動へと展開し、継続して観察や世話をする活動を設定したい。ここでは、諸感覚を使って自分の野菜をじっくり観察させたり、自分の野菜と友達の野菜を比べさせたりして、自分の野菜の生長や特徴に気付き、より自分の野菜への愛着を深めるようにしたい。さらに、「野菜さんを収穫しよう」・「野菜さんのお世話を振り返ろう」の活動では、収穫の喜びを味わわせる中で、自分の取り組み方を紹介する活動を設定し、自分の力で野菜を育て上げることができたという自分のよさや成長にも気付くことができるようにしたい。

なお、活動の展開においては、一人一人の実態に応じて支援し、互いのよさに触れ合う場を設定したり、学習したことを生かせるような教師の働きかけを行ったりしながら、子どもの思いや願いが連続・発展するようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうとともに、自分のよさや成長を実感し、自分への自信と自分の生活をこれまで以上によりよくしていくとする意欲を高めることができる。

(3) 子どもの実態 (対象者 い組 33名, 数値は延べ人数)

<p><栽培への関心・意欲> ○育ててみたい…32名 ・収穫して食べたい…18名・家族に食べさせたい…7名 ・楽しそう…5名・初めてだから、栽培が好き…各1名 ○育てたくない…1名 ・大変だから…1名</p> <p><これまでの栽培経験> ○ある…16名 ○ない…17名 ・トマト…7名 ・キュウリ…4名 ・ジャガイモ…3名 ・ミニトマト, パプリカ, ナス…各2名</p> <p><野菜の世話の必要性>(複数回答) ・水かけ…29名 ・肥料やり…15名 ・観察する…3名 ・虫取り, 草取り, 枯れた花を摘む, 日に当てる…各2名 ・声をかける…1名</p> <p><アサガオ栽培時の友達との比較> ○比べた…12名 ○比べていない…21名 ・アサガオへの気付き…8名(花の色, 大きさの違いなど) ・友達の取り組み方への気付き…4名(肥料の与え方など)</p> <p><困ったときにどうするか>(複数回答) ・先生に聞く…23名 ・友達に聞く…11名 ・野菜に詳しい人に聞く…4名 ・家族に聞く…2名 ・本で調べる, 友達の世話を見る, 自分で考える…各1名</p> <p><収穫後の思いや願い> ・食べる…16名 ・プレゼント…12名 ・見せる…5名</p>	<p>本学級の子どもたちは、ほとんどの子どもが『野菜を育ててみたい』という願いをもっており、半数の子どもは野菜の栽培経験があるが、そのほとんどが家族と共に育てた経験であり、自分自身で育てたという子どもはいなかった。そこで、子どもの思いや願いを基に、活動意欲を高めていくとともに、栽培意欲の低い子どもや栽培経験のない子どもに対しては、野菜に名前を付けさせたり、栽培に関する情報を交流できる設営をしたりする必要がある。</p> <p>野菜の世話の仕方については、アサガオの栽培経験から多くの子どもが水かけの必要性を感じている。しかし、その反面、野菜の栽培に必要な世話の仕方について気付いていない子どもが多い。そこで、アサガオと野菜の生長を比較させたり違う野菜同士を比較させたりしながら、野菜には多様な世話があることに気付かせていく必要がある。</p>
---	---

さらに、アサガオの栽培時は、友達の取組を自分の取組に生かそうという姿までは至っておらず、世話を通して困ったときの対応の仕方は、インタビューすることが中心となっている。そこで、観察や世話の仕方を互いに比べ合ったり伝え合ったりする場を設定し、友達と教え合うよさや楽しさを実感させていく必要がある。

収穫後は、育てた野菜を食べたり、プレゼントしたりしたいと願っている。そこで、成就感を実感させるために収穫の喜びを絵や言葉で表現し紹介する活動を設定していく必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 「野菜さんこんにちは」の活動では、『野菜を大きく育てて収穫したい』という思いや願いを高めたり収穫への見通しをもたせたりするために、これまでの野菜にかかわったときの気付きや経験から、野菜には収穫の喜びがあることに気付かせたり、実物や写真を提示したりする。さらに栽培意欲を高めるために、春の木市へ行き自分で苗を選び購入させる。その後、自分の野菜には名前を付けて苗を植え、日常にかかわることができるように教室の前で栽培させる。

イ 「野菜さんのお世話をしよう」の活動では、諸感覚を使って観察させるために、子ども一人一人を見取りながら、特に諸感覚を使って観察している子どもを価値付けたり意味付けたりして、全体に広がるような手立てを行う。さらに、栽培活動の見通しやよりよい世話の仕方に気付かせるために、自分と友達の野菜とを比較させながら、自分のかかわり方を見直したり、友達のよさを取り入れたりする等、比較から気付いたことを交流する活動を設定する。また、自分の力で野菜が生長したという喜びや野菜への気付きを深めるために、自分の野菜の生長を時系列で比較したり違う野菜と比較したりして気付いたことを交流する活動を設定する。

ウ 「野菜さんを収穫しよう」の活動では、収穫できた喜びや成就感を深めるために、収穫した実の味や喜びの気持ちをワークシートに絵や言葉で表現しそれを紹介する活動を設定し、互いに喜びを分かち合えるようにしていく。

エ 「野菜さんのお世話を振り返ろう」の活動では、自分のかかわり方のよさに気付かせるために、自分の野菜の生長を紹介し合ったり、野菜に手紙を書いたりする活動を設定する。その際、手紙の中で「支柱を立てたらキュウリくんは喜んでいたね」等と野菜に対しての自分のかかわりを想起させながら書かせることで、自分の工夫や頑張りによって野菜を収穫することができたことに気付かせ、今後もさらに植物へ親しみをもってかかわろうという気持ちをもてるようにする。

3 目 標

- (1) 『自分の野菜を大きく育てて収穫したい』という思いや願いを基に、諸感覚を使った栽培活動や友達との情報交換を役立て、自分の野菜を育てる活動に意欲的に取り組むことができる。
- (2) これまでの栽培経験や同じ野菜を育てている友達との情報交換、そして野菜作りに詳しい木市の人や身近な人に尋ねたこと等を基に、諸感覚を使って自分の野菜を観察し、試行錯誤しながら世話をすることができる。また、観察したことや世話をしたことを絵や文に表すことができる。
- (3) 野菜が生命をもつことや生長していること、それぞれの野菜に合った世話の仕方があることに気付く、自分の野菜に愛着をもって心を寄せながら大切に育てることができる。また、野菜を生長させることができた自分のよさや成長に気付くことができる。

4 指導計画 (全 11 時間)

活動する楽しさ	活 動 名 (思いの連続と気付きの様相)	主 な 学 習 活 動 (時 間)	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○野菜と出会い、自分の野菜をこれから育てていこうとする楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生にアサガオの種をプレゼントできた。 ・2年生でも何か育てたいな。 	前単元「やったぞ2年生」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜の栽培意欲を高めるために、自分の野菜の苗の買いに行く計画を立てさせる。 ・ 日常的にかかわらせるために、教室前で栽培させる。 ・ 自分の気付きを自分なりの方法で記録できるようにするために、観察カードの形式を多様に準備しておく。 ・ 諸感覚を使って観察している子どもを価値付けし、全体へ広げるようにする。 ・ 観察や世話の仕方を試行錯誤させるために、友達の野菜と比較させたり、情報交換をさせたりする。 ・ 困ったことを自分なりに解決させるために本や世話の仕方の紹介コーナーを作る。 ・ 自分の野菜への愛着を深めるため、観察の視点を基に友達の野菜と比較させ、そこから得た気付きを交流させる。 ・ 野菜の生長や自分の取組のよさを振り返らせるために、観察カードを蓄積させる。 ・ 野菜の生長に気付かせるために、植え付け後と収穫時の観察カードを比較し、カードを基に生長を紹介させる。 ・ 今後の活動に意欲をもたせるために、夏季休業中の栽培方法について話し合わせる。
○自分の野菜を選び、購入することができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てたいな。 ・自分で苗を選びたいな。 ・早く大きくなってね。 ・よし、大きくするぞ。 ・どんなお世話をするのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 育てる野菜を決め、木市に買い物に行く計画を立てる。(1) 市電に乗って木市に行き、自分で選んだ野菜の育て方を聞きながら購入する。(2) 	
○自分の手で野菜を植えることができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日水かけががんばるぞ。 ・野菜がたおれているよ。 ・葉っぱの色がおかしいぞ。 ・支柱を立てたよ。 ・友達の野菜はどうか。 ・なるほど。私もまねしてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉢に土作りをし、購入した野菜の苗を鉢に植え、これから活動したいことを話し合う。(1) 	
○野菜の生長を期待する楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・やっ！大きな実がなったよ。 ・すごいで。たくさんできた。 ・おいしいね。うれしいな。 ・家族に食べてもらいたいな。 ・野菜さん、ありがとう！ 	<ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を使った野菜の観察の楽しさや世話の仕方を話し合ったり、観察カードの書き方について話し合ったりする。(1) 	
○野菜の観察を工夫し、かかわりを深める楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・やっ！大きな実がなったよ。 ・すごいで。たくさんできた。 ・おいしいね。うれしいな。 ・家族に食べてもらいたいな。 ・野菜さん、ありがとう！ 	<ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を使って野菜の育ち方を観察し、お世話をするとともにこれからのかかわり方を話し合う。また、観察や世話をすることで、自分と友達の野菜とを比べ、その違いからよりよいかかわり方について考え、野菜とのかかわりを深める。 <本時>(2/4) 	
○諸感覚を使った観察から世話の仕方を工夫することができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・やっ！大きな実がなったよ。 ・すごいで。たくさんできた。 ・おいしいね。うれしいな。 ・家族に食べてもらいたいな。 ・野菜さん、ありがとう！ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が育てた野菜を収穫し、その喜びの気持ちを伝え合い、収穫後のことについて発表する。(1) 	
○友達と協力して観察や世話の仕方を工夫することができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・やっ！大きな実がなったよ。 ・すごいで。たくさんできた。 ・おいしいね。うれしいな。 ・家族に食べてもらいたいな。 ・野菜さん、ありがとう！ 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動を振り返る中で、自分のよさやできるようになったことについて紹介したり、野菜に手紙を書いたりする。また、学習したことを今後の生活の中でどのように生かすことができそうか話し合う。(1) 	
○大きくなった自分の野菜を収穫できる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・やっ！大きな実がなったよ。 ・すごいで。たくさんできた。 ・おいしいね。うれしいな。 ・家族に食べてもらいたいな。 ・野菜さん、ありがとう！ 		
○自分の野菜へのかかわり方のよさや成長を実感できる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・やっ！大きな実がなったよ。 ・すごいで。たくさんできた。 ・おいしいね。うれしいな。 ・家族に食べてもらいたいな。 ・野菜さん、ありがとう！ 		

5 本時 (7 / 11)

(1) 目 標

『自分の野菜をもっと大きく育てたい』という思いや願いを基に、進んで野菜を観察する中で、諸感覚を使って観察したり、友達の野菜と比べたりしながら、野菜の生長や特徴に気付き、自分の野菜への愛着を深めることができる。

(2) 本時の展開に当たって

野菜の生長や特徴に気付かせるために、見取った気付きを発見ボードに貼り付け、子どもの思いや願いに応じた交流活動が生まれるようにする。その際、「自分の野菜さんのいいところはどんなところかな?」と問いかけ、自分の野菜の特徴に目を向けさせ、愛着を深めるようにしたい。

(3) 準 備

自分が育てている野菜、観察カード、探検バック、発見ボード、付箋 等

(4) 展 開

階級	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	<p>1 これまでの野菜の生長や世話を振り返り、本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜がたおれていたから、支柱を立てたよ。 トマトさんの背が高くなったよ。 キュウリさんの喜ぶお世話がしたいな。 <p>じぶんのやささんのいいところをみつけよう。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> もっと野菜をくわしく観察したいという意欲を高めるために、野菜の生長の写真を掲示し、「もっと野菜さんのためにしたいことはないかな。」と問いかける。 諸感覚を使った観察から様々な気付きが生まれるようにするために、これまでの観察の経験を想起させ、「野菜さんのいいところを見付けるには、どんな観察をしたらいいのかな?」と問いかけながら確認する。
活動する	<p>2 観察の仕方を確認する。</p> <p>諸感覚を使った観察</p> <p>見る 触る 匂う 聴く か話ける</p> <p>野菜さんのことを知るために、くわしくかんさつするぞ!</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> 観察の際に自分の野菜と友達の野菜を比較する活動が自然と生まれるようにするために、同じ種類の野菜が近くなるような場作りをする。
活動する	<p>3 友達と交流しながら観察する。</p> <p>自分の野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> キュウリはヒゲが伸びてくけど、友達のはどうかな。 ぼくのみんもとの葉はザラザラしているな。 葉っぱが増えたかも。前は何枚だったかな。 <p>友達の野菜 (同じ種類) ↔ 気付きを高める交流活動 ↔ これまでの生長の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> キュウリもニガウリも茎から、ヒゲが伸びているよ。(つるの様子) ミニトマトの葉はみんなザラザラだね。(葉の感触) 葉っぱの数が前よりも増えているよ。(葉の数) 前よりも背が高くなっているよ。(背の高さ) 実が大きくなったよ。(実の大きさ) <p>私のキュウリさんは、ヒゲを伸ばして自分で支柱につかまっていますごいな。</p> <p>野菜さんはどんどん生長しているよ。がんばってるんだな。</p> <p>自分の野菜へのさらなる愛着の深まり</p>	25	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生長や特徴への気付きを共有することができるようにするために、見取った気付きを付箋に書き、同じ野菜ごとに発見ボードに貼り付ける。 個への対応 <ul style="list-style-type: none"> (1) 進んで観察ができている子ども 観察の仕方を意味付けたり価値付けたりして、そのよさを周囲にも広げるようにする。 (2) 活動に戸惑っている子ども 友達の様子に目を向けさせたり、「〇〇くんの野菜さんはどこが前と違うかな?」と具体的な観察の観点を与えたりする。 (3) 観察が早く終わった子ども 他の視点からの観察はできないか問いかけたり、他の野菜との比較から自分の野菜のよさについて考えさせたりする。
振り返る	<p>4 活動を振り返り、今後の活動について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> キュウリさんのいいところをもっと知りたいな。 野菜さんのことをもっと知って、野菜さんが喜ぶお世話がしたいな。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 自分の野菜の生長や特徴に気付かせるために、発見ボードを並べて板書し、特徴を比較させながら、「自分の野菜さんのいいところはどんなところかな?」と問いかける。 野菜の世話への意欲を高めるために、本時を振り返り、感じたことやこれからやりたいこと等を発表させる。